

第8期 事業報告

事業記録

日付	件名	備考	担当
平成19年 8日	黒生研ニュース作成・発信		岩瀬
4月 10日	平成19年度研究助成事業助成者決定・通知 黒生研ニュース発信		岩瀬
25日	CURRENT Vol. 8, No. 1 発行		中地
5月 3日	研究所イベント「磯遊び」	地域住民と共に磯遊び	
9日	土佐清水市立三崎小学校総合学習①	サンゴについて	中地
9日	黒生研ニュース発信		岩瀬
15日	土佐清水市立下ノ加江中学校特別授業	アカウミガメの生態および保護について	田中
16日	大月町立檜西小学校総合学習①	磯の生き物の動きとかたち	中地
17日	土佐清水市立三崎小学校総合学習②	磯の生き物を観察しよう	中地
19～20日	研究所イベント「慰安旅行」	構原の農家民宿体験	
26～27日	竹ヶ島リーフチェック(海陽町)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
29日	平成19年度第1回通常理事会(四万十市) GAORA 撮影協力		
6月 1日	大月町立檜西小学校総合学習②	気に入った生き物をじっくり観察	中地
3日	黒潮実感センター理事会・総会(大月町)		岩瀬
8日	大月町立檜西小学校総合学習③	海の生き物について知ろう	中地
8日	平成19年度第1回通常評議員会(研究所)		
11日	大月町立檜西小学校総合学習④	磯の生きものの調べ方	中地
13日	大月町教育研究会・総合学習部会研修会(研究所)	身近な海と環境学習	中地
16日	サンゴ産卵調査開始(研究所)		岩瀬
20日	黒生研ニュース配信		岩瀬
26日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	私たちを取り巻く海	中地
7月 3日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	浜の宝探し	中地・田中
5日	大豊町立大杉中学校「海洋体験活動 in 夜須」 (香南市)	海と山とのつながり	岩瀬
10日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	浜の宝探し(まとめ)	中地・田中
12日	大月町立大月中学校「職場体験学習」(研究所)		全
14日	台風4号襲来・海水取水管破損		
16日	黒生研ニュース配信		岩瀬
17日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	大岐の浜に産卵するアカウミガメ	田中
20～21日	海水取水管修理		岩瀬
25日	CURRENT Vol. 8, No. 2 発行		中地
30日～1日	第6回黒潮生物研究所サマースクール開催 (研究所)	～君も小さな研究者～	中地・全
8月 2日	台風5号襲来		
10～12日	テレビ朝日報道ステーション取材撮影に協力		全
12日	黒生研ニュース発信		岩瀬
13日	研究所イベント「地域との交流会」		
15日	黒生研ニュース発信		岩瀬
17日	テレビ朝日報道ステーション放送		
21日	土佐清水市立三崎小学校総合学習③	畜串のサンゴを見てみよう	中地・田中
22日	第7回竹ヶ島海中公園自然再生協議会専門委員会 (徳島県庁)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬

日付	件名	備考	担当
23日	GAORA 放送		
30日	幡多地域大学推進協議会・設立総会(四万十町)		岩瀬
31日	サンゴ産卵調査終了(研究所)		岩瀬
9月 3日	土佐清水市立下ノ加江中学校特別授業	子ガメの放流会	田中
6日	香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会(香南市)		岩瀬
15日	桂浜水族館創立75周年記念祝賀会出席(高知市)		岩瀬
22~24日	2007年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会(横浜市大)		野澤
26日	竜串自然再生協議会技術支援委員会(高知市)	竜串自然再生事業	岩瀬・中地
10月 2日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	大岐の浜の海岸林探検①	田中
7日	遊亀会会合(四万十町)		岩瀬・田中
9日	大岐浜垣解放子ども会自然学習(土佐清水市)	大岐の浜の海岸林探検②	中地・田中
12~14日	日本刺胞動物等談話会(NCB)開催(大月町)		野澤
13日	サンゴ種苗の移植イベント(大月町)	大月地区パークボランティアの会と協催	
15日	香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会(香南市)		岩瀬
17日	高知県高等学校教育研究会秋季研修会(研究所)	サンゴってなんだろう?	岩瀬
20日	環境活動見本市(四万十町)	研究所の活動紹介	田中
21日	サンゴ保全イベント「サンゴのモニタリング調査法とその実践」(大月町)	大月地区パークボランティアの会主催	中地
23日	第1回大月町サンゴ保全対策会議(研究所)	大月町事業	岩瀬・中地
25日	CURRENT Vol. 8, No. 3 発行		中地
27日	ふれあい高知新聞「夜なべ談義」出席(大月町)	高知新聞社主催	岩瀬
11月 6日	第1回サンゴ礁保全に関する有識者ヒアリング会議出席(東京都)	環境省	岩瀬
7日	香南市グラスボート調査(香南市)		岩瀬
8日	第2回大月町サンゴ保全対策会議(大月町)	大月町事業	岩瀬・中地
10~11日	第1回竜串リーフチェック(土佐清水市)	竜串自然再生事業	中地・岩瀬
13日	足摺宇和海サンゴ・食害生物モニタリング準備会開催(宿毛市)	管理方針検討調査	中地・岩瀬
16~18日	第18回日本ウミガメ会議(種子島)		岩瀬
21日	香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会(香南市)		岩瀬
23~25日	日本サンゴ礁学会第10回大会(琉球大学)		野澤・中地
12月 3日	第8回竹ヶ島海中公園自然再生協議会専門委員会(徳島県庁)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
8日	愛媛朝日放送撮影協力(愛南町)		岩瀬・田中
13日	大月町におけるサンゴ群集の保全活用とサンゴ群集のモニタリング調査方法について①	大月町海洋資源保全活用事業	中地
17日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習①	大月町海洋資源保全活用事業	中地
19日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習②	大月町海洋資源保全活用事業	中地
19日	第9回竹ヶ島海中公園自然再生協議会専門委員会(徳島県庁)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
20日	第7回竹ヶ島海中公園自然再生協議会(海陽町)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
21日	香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会(香南市)		岩瀬
22日	大月町におけるサンゴ群集の保全活用とサンゴ群集のモニタリング調査方法について②	大月町海洋資源保全活用事業	中地
23日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習③ モニタリング調査結果の解析について、足摺宇和海のサンゴ群集について	大月町海洋資源保全活用事業	中地
29日	研究所イベント「餅つき」		

日付	件名	備考	担当
平成20年 1月 7日	第2回サンゴ礁保全に関する有識者ヒアリング会議 出席(東京都)	環境省	岩瀬
17~18日	自然再生協議会情報連絡会議・西日本(岸和田市)	環境省	岩瀬
25日	CURRENT Vol. 8, No. 4 発行		中地
28日	香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会(香南市)		岩瀬
30日	モニタリングサイト1000サンゴ礁調査ワーキンググループ 会合(東京都)	自然環境研究センター	岩瀬
2月 5日	土佐清水市観光ボランティア養成講座①	サンゴの生態とサンゴの海足摺	中地
7日	公益法人制度説明会出席(高知県庁)		長岡
8日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習④	大月町海洋資源保全活用事業	中地
17日	平成20年度助成研究募集開始 黒生研ニュース発信		岩瀬
21日	第2回もやい塾「磯の観察と研究所の仕事の紹介」 (研究所)		岩瀬
22日	幡多地区婦人会大会にて講演(大月町)		岩瀬
23日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習⑤	大月町海洋資源保全活用事業	中地
25日	サンゴ群集のモニタリング調査法の実践講習⑥	大月町海洋資源保全活用事業	中地
26日	土佐清水市観光ボランティア養成講座②	竜串の海とサンゴを守る取り組み	中地
3月 3日	第5回ホンダワラ属の分類に関するワークショップ (鹿児島市)		田中
5日	足摺宇和海サンゴ・食害生物モニタリング連絡会議 (宿毛市)	管理方針検討調査	中地・岩瀬
11日	平成19年度第2回通常理事会(堺市) 平成19年度助成研究発表会(堺市)		岩瀬・長岡
14~17日	日本生態学会第55回大会(福岡市)		野澤
17日	土佐清水市観光ボランティア養成講座③	竜串パンフレット作成ワークショップ	中地
17日	第10回竹ヶ島海中公園自然再生協議会専門委員会 (徳島県庁)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
18日	第8回竹ヶ島海中公園自然再生協議会(海陽町)	竹ヶ島海中公園自然再生事業	岩瀬
22~23日	日本藻類学会第32回大会(東京海洋大)		田中
23日	大月町観光開き出席		岩瀬
25日	平成19年度第2回通常評議員会(研究所)		
27日	竜串自然再生協議会技術支援委員会(土佐清水市)	竜串自然再生事業	岩瀬
28日	竜串自然再生協議会(土佐清水市)	竜串自然再生事業	岩瀬・中地
30日	Kuroshio Biosphere Vol. 4 発行		野澤

事業の内容

1 研究事業

(1) 造礁サンゴに関する研究

○四国沿岸のサンゴの分布と加入状況の継続調査

愛媛県愛南町から徳島県牟岐町に至る四国南岸全体のサンゴの分布状況について平成16年度より調査を継続している。土佐清水市から愛南町にかけての足摺宇和海海域については東海大学

との共同研究。サンゴの分布動態や攪乱の状況などを記録している。平成 19 年度は例年より高水温期の白化がやや強く発生し、各地でオニヒトデの生息量が増加している一方、調査開始以来最もサンゴの加入の多い年だった。本調査のデータは環境省のモニタリングサイト 1000 事業、土佐清水市童串及び徳島県海陽町竹ヶ島で取り組みが行われている自然再生事業にも利用されている。

○サンゴの加入量調査手法の再検討

平成 18 年度の調査から、着生基盤の表面の形状が着生直後の稚サンゴの生存に大きな影響を与えることが明らかとなったため、現在世界的に行われている平面の着生板による幼生の加入量調査が幼生の加入量を正しく反映しないことが疑われた。そのため、平らな着生板と窪みを付けた着生板を用いてサンゴ幼生の加入量調査を実施し、各着生板上に着生した幼サンゴを含めた固着性底生生物の比較を行った。現在結果を解析中。

○研究所地先におけるサンゴ産卵状況の調査研究

研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を継続調査した。夜間の潜水による調査は平成 14 年度より継続。平成 19 年度は 33 種のサンゴについて情報が得られた。また、産卵が観察できていない複数の種について組織学的手法により産卵時期を推定するために時系列で群体の一部を採取した。また、研究所地先に生息している主要種 5 種について、ポリプ当たりの卵の生産量、産卵の時期、群体間の産卵の同調性について詳細な調査を行い、非サンゴ礁域におけるサンゴの産卵特性を検討している。

○プラヌラ幼生の生存期間に関する研究

フッ素樹脂の容器を用いて、着生しない状態でミドリイシのプラヌラ幼生を飼育し、生存可能期間や幼生サイズの変化等を調査した。プラヌラ幼生が正常に浮遊生活を送り、高い着生能力を持つ期間は産卵後 2~3 週間までの間であることが明らかになった。

○着生した幼サンゴの生存条件に関する研究

着生基盤の形状によって藻食動物の影響や懸濁物質の堆積による影響がどの程度異なり、幼サンゴ生存状況にどのような影響を与えるか、また、幼サンゴのサイズや共生藻の獲得時期が種によって異なることが幼サンゴの生存状況にどのような影響を与えるかについて調査・研究を行った。平成 18 年度からの継続研究。

○キクメイシ科サンゴの発生に関する研究

平成 19 年度招聘研究として東京工業大学博士研究員の久保奈弥氏を招聘し、キクメイシ科サンゴの発生に関する研究を実施した。本研究は、多種のサンゴの産卵情報があり、卵採取が可能な黒潮生物研究所の特質を活かし、受精後初期の卵発生の様式について詳細な検討を加えるものである。平成 20 年度に複数の論文を公表する予定。

○サンゴ種苗の開発

平成 19 年度は需用者に供給できるよう 1,000 個程度のサンゴ種苗の生産を行う目的で、種苗の着生板をこれまでの 10×10cm から 5×1.5cm に小型化し、初期育成水槽の攪拌方式を空気の吹きつけ方式から機械式に変更して効率化を図り、阿嘉島臨海研究所で実施されている藻食性巻貝類との共存飼育により生残率の向上を図ったが、着生板の配置や攪拌機の回転数が最適でなく、沖縄海域に比べて稚サンゴの成長が遅いため藻食性巻貝類との共存飼育により返って稚サンゴの生残率が低下する結果となった。今年度得られた着生条件およびサンゴの初期生存に係る研究成果を勘案して平成 20 年度以降、種苗生産技術の改良を継続する。

なお、今年度はニホンミドリイシ、エンタクミドリイシ、クシハダミドリイシ、エダミドリイ

シ、ハナヤサイサンゴ、ショウガサンゴ、キッカサンゴ、カワラサンゴ、カメノコキクメイシ、ゴカクキクメイシ、シモフリカメノコキクメイシ、ミダレノウサンゴ、フカトゲキクメイシの13種について初期育成を行い、知見を得た。本研究の成果は土佐清水市竜串及び徳島県海陽町竹ヶ島で取り組みが行われている自然再生事業にも利用されており、海域に放流されたサンゴ種苗の成長等も継続的に記録されている。

(2) 海藻に関する研究

○高知県南西部海域の海藻植生に関する研究

宿毛市・大月町・土佐清水市海域に生育する海藻植生を調査し、107種の海藻類を確認した。調査結果から各調査地点の暖海性係数と地点間の類似度係数を求めたところ、足摺岬から柏島にかけての南面海岸では、足摺岬以東の土佐湾に面した海岸よりも暖海性の強い海藻群落が見られ、宿毛湾奥部の大規模なガラモ場が存在する調査地点では多様性が低いことが明らかになった。田中の修士論文研究。

○高知県沿岸の藻場の分布および長期的変遷に関する研究

平成18年度に引き続き、沿岸のホンダワラ類、コンブ類で構成される藻場の分布と種組成を調査した。平成19年度は、土佐清水市から四万十市の沿岸、横浪半島沿岸、室戸岬周辺において調査を行った。大月町から四万十市までの高知県西部海域で藻場を構成しているのは11種のホンダワラ類と2種のコンブ類であり、最も多く見られたのは南方種のフタエモクの藻場で、藻場全体の約54%を占めており、分布を大きく広げていることが明らかになった。また、波当たりの強さにより藻場の構成種が異なることが示唆された。平成20年度も未調査域について調査を継続する。高知県水産試験場、高知大学との共同研究。

○ホンダワラ類群落構造と季節変化に関する研究

藻場構成種の経年・周年的な変遷を理解する上で、生育するホンダワラ類の分布構造や生態的地位を知るために、外洋的な環境の大月町西泊と内湾的な環境の土佐清水市桜浜において、固定コドラートを用いて藻場を構成するホンダワラ類の群落構造と季節変化を周年調査した。その結果、西泊ではタマナシモクが6月に、桜浜ではキレバモクとフタエモクが6~7月に最大現存量を示し、西泊のタマナシモクは浅所にのみ分布するのに対して、桜浜のフタエモクとキレバモクは深所に分布する傾向があり、地域や種によって生育水深が異なることが明らかになった。平成20年度も調査を継続する予定。

○藻場造成の可能性を検討する試験

大月町、すくも湾漁協、研究機関、一般企業などで構成する「海の森作り研究会」では、藻場造成の取り組みを行っており、平成18年度から西泊と古満目の両海域においてカジメの移植実験を行っており、平成19年度はカジメの生残および生長の状況に関する追跡調査を行った。その結果、平成18年度の高水温期に衰退していたカジメ藻体は、冬季から春季にかけて生育状態が回復し、成長が見られたものの、7月に台風の波浪で実験系が剥削されたため実験を終了した。結果から、大月町南岸海域では夏の高水温期はカジメが生育することが難しいが、冬季の水温環境はカジメの生育に適していることが明らかになり、海中林造成を目指すならば多年藻による藻場造成ではなく、アントクメやヒロメなど単年生の種を用いた方が実現可能性が高いことが示唆された。

(3) ウミガメに関する研究

○アオウミガメの食性に関する研究

平成 19 年度は混獲や漂着により死亡したアオウミガメ 3 個体を解剖し、消化管内容物を調べた。内容物は、これまでの調査で得られたサンプルと同様に、マクサをはじめとする紅藻類が多く見られた。

○アカウミガメの産卵状況調査

研究所近隣の砂浜におけるアカウミガメの産卵状況について調べた。土佐清水市の桜浜については、毎朝浜の清掃をしている方からの聞き取りを行った結果、平成 19 年度は上陸・産卵ともなかった。

(4) その他

○足摺宇和海海域のサンゴ食害生物の分布状況に関する研究

足摺宇和海海域におけるサンゴ食害生物の分布状況、個体群動態を明らかにするため、サンゴおよびオニヒトデの分布状況の現地調査、聞き取り調査、また駆除したオニヒトデの体長測定などを行い、広域的な情報を収集・整理した。本研究の一部は環境省による管理方針検討調査、グリーンワーカー業務、大月町による海洋資源保全活用事業等の業務の一環として行われ、足摺宇和海海域のサンゴ群集保全のために利用された。

2 研究助成事業

次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として、平成 19 年度も下記の要領で研究助成事業を継続した。

- **助成の対象**：黒潮生物研究財団設立の目的に添う研究であれば、研究の実施場所や研究分野は問わないが、営利を目的とするものは対象としない。
- **応募資格**：大学卒論生、研究生、専攻科生、大学院生、その他の研究者。
- **助成対象となる費用**：実験や調査に使用する器具費、材料費、調査に必要な旅費、施設や設備の使用料など、直接研究に必要な費用。
- **助成規模**：1 件につき 20 万円以内。5～6 件程度。
- **助成期間**：原則として平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで。
- **応募方法**：所定の申請書に必要事項を記入し、当財団宛に郵送。
- **選考方法**：当財団の理事及び評議員の審査により、専務理事が採否を決定。
- **助成をうけた者の義務**：
 - ・ 所定の様式により、研究成果の概要について報告書を提出。
 - ・ 助成研究の成果を公表する場合には、財団の助成を受けたことを明記。出版された論文等は、1 部を財団宛に送付。
 - ・ 財団の主催する講演会において、研究成果について講演する。

以上の要項により助成研究を募集したところ、18 件の応募があり、選考の結果、以下の 5 件の研究に助成金を交付した。

・宮本麻衣（東海大学 院 海洋）

「四国西南海域におけるハナヤサイサンゴ科 2 種の生活史に関する研究」

・渡邊美穂（東海大学 院 海洋）

「四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入」

・依藤実樹子（東京大学 院 海洋研）

「ムカデミノウミウシの地理的分布拡大に伴う適応と進化」

・玉井玲子（琉球大学 院 理工）

「藻食性動物と栄養塩が小サンゴ群体の生存と成長に及ぼす影響」

・加藤芽衣（高知大学 院 農）

「サンゴ食巻貝の行動から見る集合体形成要因の解明」

サンゴの生態に関するものが3件、サンゴを食害する巻貝に関するものが1件、その他の生物に関するものが1件となった。

平成20年3月11日にステラケミファ株式会社三宝工場（大阪府堺市）会議室において助成研究報告会を催し、財団理事、ステラケミファ株式会社研究部の社員を中心に20名ほどの前で玉井さんを除く4名の助成者に研究成果について発表してもらった。なお、玉井さんについては、調査海域など当初の研究予定の一部を変更し、研究期間を1年延長したいと申請があったため、平成21年3月末までの1年間、助成期間を延長した。

4名の助成研究成果の概略は、財団ホームページ上で公開している。

助成研究成果公表のページ：http://kuroshio.or.jp/set_osirase.htm

3 受託調査・事業等

（1）H19自竹ヶ島海中公園海陽 自然再生事前調査 室戸阿南海岸国定公園

発注者：ニタコンサルタント(株)

内容：徳島県海陽町竹ヶ島及び高知県東洋町甲浦に囲まれた海域においてサンゴ群集を中心とする生態系が変質しつつあるため、自然再生の手法により再生する方策を策定するための調査。海域調査の内、サンゴの加入状況調査、エダミドリイシの増殖に係る調査および増殖試験。

契約期間：平成19年6月30日～平成20年3月25日

（2）平成19年度モニタリングサイト1000事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

発注者：(財)自然環境研究センター

内容：環境省が実施しているモニタリングサイト1000事業のサンゴ礁モニタリングのうち、四国沿岸海域のモニタリング調査

契約期間：平成19年8月1日～平成20年2月25日

（3）トサカ藻場増殖試験調査委託業務

発注者：大月町

内容：大月町一切において実施されたトサカノリ増殖試験（母藻を入れた真珠母貝用養殖カゴを実験地の海中に垂下設置し、母藻から放出された胞子によってトサカノリ植生の拡大を目指す）の効果の検証を目的とする調査。

契約期間：平成19年10月1日～平成20年3月31日

（4）平成19年度グリーンワーカー事業（オニヒトデ駆除事業）

発注者：環境省 中国四国地方環境事務所

内容：足摺海域（宿毛市、大月町、土佐清水市）のオニヒトデ駆除活動。

契約期間：平成19年10月24日～平成20年3月19日

(5) 海洋資源保全活用事業委託業務

委託者：大月町

内容：地域固有の観光資源であり、学術的、教育的にも高い価値を持つ大月町沿岸域のサンゴ群集を保全し、海洋資源の持続的な活用をはかる目的で、サンゴ群集等のモニタリング調査、保全対策の検討と実施、教育啓蒙活動を行う。

契約期間：平成19年10月15日～平成20年2月29日

(6) 平成19年度管理方針検討調査（足摺宇和海国立公園オニヒトデ等監視対策検討調査）委託業務

委託者：環境省 中国四国地方環境事務所

内容：足摺宇和海国立公園海域および周辺海域において、サンゴ群集、サンゴ食害生物、及びその駆除状況等の現況を明らかにすることにより、モニタリング体制とサンゴ食害生物の駆除体制の構築に資することを目的とする調査。

契約期間：平成19年11月1日～平成20年3月21日

(7) 平成19年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

発注者：環境省 中国四国地方環境事務所

内容：土佐清水市竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系再生のためのモニタリング調査およびサンゴ類増殖試験。

契約期間：平成19年11月7日～H20年3月26日

4 自然再生への取り組み

黒潮生物研究所では、四国の海域における2ヶ所の自然再生、高知県土佐清水市竜串における「竜串自然再生」、および徳島県海陽町と高知県東洋町にまたがって広がる甲浦湾における「竹ヶ島海中公園自然再生」について取り組みを行っている。竜串では研究所設立当初の平成13年度から研究所の業務としてサンゴの衰退対策のための調査に関わっており、竹ヶ島では平成15年度からサンゴ専門家として岩瀬が専門委員会に関わっていた。平成17年度に竹ヶ島海中公園自然再生協議会が、翌平成18年度には竜串自然再生協議会が発足したことをうけて、研究所は両協議会の委員に登録し、これまで同様学識者、調査請負者として関わりと同時に、自然再生事業実施者として積極的に関わることにしている。

(1) 竜串自然再生

土佐清水市竜串の海中公園及び周辺海域で実施されている自然再生事業において、当財団は、研究所として協議会の委員に参加し、モニタリング調査やサンゴの増殖試験等の事業を担当しているほか、サンゴの専門家として事業計画等に助言を行っており、岩瀬が会長代理および技術支援委員に、中地が全体構想ワーキンググループ座長に選任されている。

竜串自然再生のホームページ：<http://tatsukushi-saisei.com/top.html>

○第3回竜串自然再生協議会

期 日：3月28日

場 所：土佐清水市

内 容：平成19年度調査内容の報告、全体構想案承認、平成20年度事業の提案。調査事業実施者および全体構想ワーキンググループ座長として中地が、調査事業実施者、協議会会長代理および議長として岩瀬が参加し、審議した。

○竜串自然再生協議会 技術支援委員会

期 日：第1回9月26日、第2回3月27日

場 所：第1回高知市、第2回土佐清水市

内 容：平成19年度事業の予定、平成18年度調査内容の報告、全体構想（案）修正案について、調査事業実施者として中地が、調査事業実施者および専門家として岩瀬が参加し、審議した。

○竜串自然再生協議会 全体構想ワーキンググループ

期 日：10月9日

場 所：土佐清水市

内 容：中地が座長を務め、事務局が取りまとめた竜串自然再生全体構想案について審議した。

○土佐清水市立 三崎小学校（5年生）環境教育プログラム

期 日：5～8月（3回）

テーマ：僕たちの海、私たちの海 ～ふるさとの海を見直そう！～

内 容：平成18年度に引き続き、土佐清水市三崎小学校5年生が行っている総合学習に中地がコーディネーター・講師として、田中が講師として参加した。この取り組みは竜串自然再生事業における「環境学習の推進」のモデル的な取り組みという位置づけで行ったもので、地域の資源を生かした体験的なプログラムづくりとその実践、竜串周辺の集団利用施設の教育的利用促進、地域の連携体制構築などを視野に入れて行った。授業のアウトプットとして、平成19年度は足摺海底館でのこどもガイドの実施のほか、「竜串観光マップ」の制作を行った。この観光マップは「平成19年度JATA環境基金地球に優しい環境学習支援助成」を受けて6,500部作成され、地域に配布される。

担 当：中地、田中

○土佐清水市観光ボランティア養成講座

期 日：2～3月

対 象：土佐清水市観光ボランティア会メンバー

内 容：竜串自然再生事業に関連した地域住民の保全意識の啓発と、竜串で観光案内を行うボランティアの育成を目的として、サンゴに関する講習会や、竜串の海とサンゴに関するリーフレットづくりのワークショップなどを環境省と協力して行った。

担 当：中地

○第1回竜串リーフチェック

期 日：11月10～11日

対 象：一般ダイバー

内 容：竜串観光振興会、黒潮生物研究所、コーラルネットワークの共催で行われた、第1回竜串リーフチェックにスタッフとして参加した。このリーフチェックは竜串自然再生におけるモニタリング活動の一環として行われたもので、地元のダイビングショップが中心となり、一般ダイバーの参加により実施された。

担 当：中地（チームサイエンティスト）・岩瀬

(2) 竹ヶ島海中公園自然再生

徳島県海陽町において実施されている竹ヶ島海中公園自然再生事業において、当財団は、研究所として協議会の委員に参加し、モニタリング調査やサンゴの増殖試験等の事業を担当しているほか、岩瀬が専門委員に選任されていて、サンゴの専門家として事業計画等にアドバイスをを行っている。

竹ヶ島海中公園自然再生のホームページ：<http://takegashima.jp/>

○竹ヶ島海中公園自然再生 専門委員会

期 日：(第7回)8月22日，(第8回)12月3日，(第9回)12月19日，(第10回)3月17日

場 所：徳島県庁

内 容：自然再生に係る調査の内容検討、自然再生実施計画の策定、自然再生事業として申し込みのあった事業の審議・承認、今後の事業の進め方等について審議を行った。

○竹ヶ島海中公園自然再生協議会

期 日：(第7回)12月20日，(第8回)3月18日

場 所：徳島県海陽町(旧穴喰町)穴喰老人憩いの家

内 容：自然再生事業として申し込みのあった事業の審議・承認、部会の活動および事業実施状況の報告、今後の事業の進め方等について審議、承認等を行った。

○リーフチェック穴喰

期 日：5月26～27日

場 所：徳島県海陽町(旧穴喰町)竹ヶ島海域

主 催：BSAC JAPAN

内 容：世界的に統一された手法で、レジャーダイバーによってサンゴ礁の健全度を調べるプログラム。「月刊ダイビングワールド」8月号に関連記事が掲載された。

担 当：岩瀬(チームサイエンティスト)

5 啓蒙・広報活動

(1) 第六回黒潮生物研究所サマースクール ―きみも小さな研究者―

共 催：黒潮生物研究所・大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会・愛媛県教育委員会

期 日：平成19年7月30～8月1日(2泊3日)

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県幡多地域、愛媛県南予地域の小学4～6年生41名

主なプログラム：海藻押し葉絵はがきづくり、磯カルタづくり、草木染めでハンカチを作ろう、海水浴、ちょんがりクイズラリー、飯盒炊さん、テントで宿泊、肝だめし、キャンプファイアー 等

(2) 第三回日本刺胞動物等談話会(NCB)の開催

平成17年に設立された日本刺胞動物等談話会(会長：京都大学教授 久保田 信)の第3回大会が黒潮生物研究所で開催された。

期 日：平成19年10月12～14日

場 所：黒潮生物研究所・エコロジーキャンプ場

参加者：全国の刺胞動物・有櫛動物の研究者 12 名

主なプログラム：研究発表会（10 題）、大月地区パークボランティアの会と合同の講演会、懇親会、サンゴ網採集、潜水採集、プランクトンネット採集等

（2）機関誌「CURRENT」出版

平成 19 年 4 月 25 日に Vol. 8, no. 1（通巻 28 号）、7 月 25 日に Vol. 8, no. 2（通巻 29 号）、10 月 25 日に Vol. 8, no. 3（通巻 30 号）、平成 20 年 1 月 25 日に Vol. 8, no. 4（通巻 31 号）の 4 回、予定通り刊行した。平成 20 年 1 月現在、164 ヶ所に発送している。

（3）学術誌「Kuroshio Biosphere： Bulletin of the Biological Institute on Kuroshio」出版

平成 20 年 3 月 30 日に第 4 号を出版した。国内 112 ヶ所、国外 93 ヶ所の教育機関・研究機関等に発送した。



（4）黒生研ニュースの配信

平成 16 年 10 月から配信をはじめた黒生研ニュースを、平成 19 年度は 4 月 8 日、4 月 10 日、5 月 9 日、6 月 20 日、7 月 16 日、8 月 12 日、8 月 15 日、2 月 17 日の 8 回配信した。内容は研究所の運営状況や調査・研究の状況、研究者や学生による利用状況等、身近な情報で、下記の対象に電子メール、FAX、文書で配信している。年度後半に業務が繁多となり、配信が半年間途絶えたが、2 月から再開した。

配信先：財団役員、財団評議員、財団職員、高知県庁関連機関、環境省関連機関、大月町関連機関、漁業協同組合、寄附をいただいた方々 等

（5）教育機関への協力

○大月町立 檜西小学校 総合的な学習の時間（全校生徒）

期 日：第 1 学期（4 回）

場 所：檜西小学校、黒潮生物研究所、研究所前の浜

テーマ：磯の生き物しらべとサンゴの学習

内 容：総合学習の一環として海の生き物をテーマにした調べ学習を行っている檜西小学校を今年度も引き続きサポートした。授業の講師を受け持つだけでなく、効果的な授業の進め方や方向性について、教職員と協議し、教育的効果の高い授業を展開できるようにつとめた。

担 当：中地

○土佐清水市立 三崎小学校 総合的な学習の時間（5 年生）

期 日：第 1 学期～夏休み（3 回）

場 所：土佐清水市三崎小学校・爪白海岸

テーマ：磯の生き物しらべとサンゴの学習

内 容：竜串自然再生の項（8～9 ページ）参照のこと

担 当：中地・田中

○大月町立 大月中学校 職場体験（3年生2名）

期 日：7月11～12日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：中学生2名が、海藻押し葉標本づくり、潮間帯生物の調査、サンゴの世話など研究所の仕事を体験した。

担 当：中地、野澤、田中

○土佐清水市立 下ノ加江中学校 環境学習（全校生徒と一般）

期 日：5月15日、9月3日

場 所：下の加江中学校および大岐の浜

内 容：古くから近隣の砂浜でウミガメの保護活動を行ってきた中学校。アカウミガメの生態と保全について講義を行い、子ガメの放流会に参加した。

担 当：田中

○大豊町立 大杉中学校 「海洋体験活動 in 夜須」（2年生全員）

期 日：7月5日

場 所：香南市夜須町マリンスポーツ体験施設「シースポ」から大手の浜

内 容：文部科学省「豊かな体験活動推進事業：地域間交流プログラム」に指定されているプログラムを実施。シーカヤックでシースポから大手の浜まで移動し、大手の浜で海の生き物と山の生き物のつながりについて講義を行い、磯の生物観察を行った。

担 当：岩瀬

○高知県立 宿毛高校 校外学習（1年生10名、教員2名）

期 日：1月31日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：「産業社会と人間・地域理解」の授業の一環として、宿毛市周辺の海の環境についての講義を行った。

担 当：中地

○高知県立 宿毛高校 校外学習（2年生8名、教員1名）

期 日：2月18日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：「自然観察」の授業の一環として、サンゴの生態等についての講義・ワークショップを行った。

担 当：中地

○大月町教育研究会 総合学習部会の開催（教員7名）

期 日：6月13日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：黒潮生物研究所の研究や活動の紹介、サンゴに関するワークショップを行った。

担 当：岩瀬・中地

○高知県高等学校教育研究会理科部会幡多支部 秋季研修会

期 日：10月17日

場 所：黒潮生物研究所
内 容：講演「サンゴってなんだろう」
担 当：岩瀬

(6) その他の機関への協力

○土佐清水市大岐浜垣解放子ども会における自然学習

内 容：大岐地区の子ども会活動の一環として「自然学習」（全7回）を企画し、土佐清水市大岐福祉センター職員と協力して実施した。「大岐の浜を知る」をテーマに、大岐の浜での漂着物拾いや海岸林の探検などを行い、地域の自然について知ってもらった。

第1回：6月26日「私たちを取り巻く海（講義）」
第2回：7月3日「浜の宝探し（ビーチコーミング）」
第3回：7月10日「浜の宝探し（まとめ）」
第4回：7月17日「大岐の浜に産卵するアカウミガメ（講義）」
第5回：10月2日「大岐の浜の海岸林探検（海岸林探検）」
第6回：10月9日「大岐の浜の海岸林探検（まとめ）」
第7回：10月16日「豊かな大岐の浜の自然（講義）」
担 当：中地・田中

○大月町体験型観光受入研究会への参加

大月町の恵まれた自然環境や地域の伝統、歴史、食文化などの資源を生かした教育的価値の高い地域参加型の体験型観光の推進による持続可能な地域づくりについて考える「大月町体験型観光受入研究会」（2006年7月発足）に副会長として参加し、中心的なメンバーとして町内におけるセミナーやモニターツアー、インストラクター養成のための研修会等を企画・実施した（平成19年度高知県観光ビジョン実践支援事業）。

担 当：中地

○もやい塾第2回例会

期 日：2月21日
場 所：黒潮生物研究所
主 催：もやい塾（旧「幡多に大学をつくる会」）
内 容：磯の観察会および講演「黒潮生物研究所の仕事」
担 当：岩瀬

○平成19年度幡多地区婦人大会・大月町婦人大会

期 日：2月22日
場 所：大月町農村環境改善センター
内 容：講演「変わりゆく幡多の海 ～共に暮らしていくために～」
担 当：岩瀬

○串本海中公園 特別展「ウミガメの世界」に協力

期 日：2006年12月23日～2007年11月30日
場 所：和歌山県串本町 串本海中公園センター
内 容：串本海中公園の特別展に岩瀬が資料提供により協力した。
担 当：岩瀬

○株式会社堀場製作所 2008年カレンダー「サンゴ」に写真提供

内 容：国際サンゴ礁年参加企画として堀場製作所が製作した 2008 年のカレンダーに写真提供により協力した。

関連ホームページ：http://www.jp.horiba.com/news/news_release/id_919.htm

担 当：岩瀬・中地

○「大月町勢要覧 2007」に対談掲載

内 容：「大月町勢要覧 2007」に特別対談「総天然色に彩られ この海、この自然は唯一無二の宝物です」と題して町長と岩瀬の対談が掲載された。

担 当：岩瀬



(7) 委員・役員等就任

その他、平成 19 年度には財団職員が以下の委員・役員等に就任した。

- ・竜串自然再生協議会 会長代理・技術支援委員（岩瀬）
- ・竜串自然再生協議会 全体構想ワーキンググループ座長（中地）
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員（岩瀬）
- ・モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査検討会委員（岩瀬）
- ・サンゴ礁保全に関する有識者ヒアリングメンバー（岩瀬）
- ・香南市マリンスポーツ振興計画策定委員会 委員長（岩瀬）
- ・農林水産省環境相談員 [登録番号：39013]（岩瀬）
- ・高知県文化環境アドバイザー [分野：自然・環境]（岩瀬）
- ・NPO 法人黒潮実感センター 理事（岩瀬）
- ・NPO 法人日本ウミガメ協議会 監事（岩瀬）
- ・幡多地域大学推進協議会 委員（岩瀬）
- ・日本刺胞動物等談話会（NCB）コアメンバー（岩瀬）
- ・大月町体験型観光受入研究会 副会長（中地）
- ・大月町イベント実行委員会役員（中地）
- ・檜西小学校 開かれた学校づくり推進委員会 委員長（岩瀬）
- ・檜西小学校 閉校委員会 閉校記念誌編集委員長（岩瀬）
- ・つきなだ保育所 監事（中地）
- ・西泊地区 役員（岩瀬）
- ・西泊うまい会 事務局（岩瀬）

(8) その他

○HP上での情報公開

平成 14 年度より、財団ホームページ (<http://www.kuroshio.or.jp>) 上で事業及び決算内容と事業予定及び収支予算を公開している。また、ホームページ上で寄附の募集と寄附申込書、助成金の募集要項や応募フォーム、研究所の利用に必要な書類等を入手できるようにしている。

平成 19 年度から英語のページを新設した。また、機関誌全号の目次を検索できるようにした。

○ブログ上での情報公開

今年度もブログにサンゴの産卵情報を中心に新着の話題をタイムリーに提供した。

○参加学会等

財団、研究所あるいは職員は以下の団体に参加している。

- ・日本サンゴ礁学会 会員（財団）
- ・日本藻類学会 会員（田中）
- ・日本生態学会 会員（野澤）
- ・日本ベントス学会 会員（野澤）
- ・日本生物地理学会 会員（岩瀬）
- ・日本動物分類学会 会員（岩瀬）
- ・NPO 法人日本ウミガメ協議会 会員（財団）
- ・日本刺胞動物等談話会（NCB） 会員（岩瀬・野澤）
- ・竜串自然再生協議会 委員（財団）
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会 委員（財団）
- ・南紀生物同好会 会員（岩瀬）
- ・NPO 法人黒潮実感センター友の会 会員（財団）
- ・NPO 法人環境の杜こうち 会員（財団）
- ・足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 会員（岩瀬・中地・田中）
- ・八重山サンゴ礁保全協議会 会員（岩瀬）
- ・遊亀会 会員（財団）

○テレビ番組の放映

- ・6月4日放送 NHK「大都会の海 知られざる東京湾」映像素材に関する説明で協力。
- ・8月17日放送 テレビ朝日報道ステーション「高知県大月町・亜熱帯性サンゴ北上中」取材撮影に協力
- ・8月23日放送 GAORA「エターナル～情熱のパソドブレ」5月29日撮影取材協力
- ・1月1日放送 BS フジ「新・日本百景：千葉県館山市沖ノ島のサンゴ」映像素材に関する説明で協力
- ・1月2日放送 愛媛朝日テレビ「四季の国～第一章・愛媛の冬」12月8日に取材撮影に協力
- ・放送日不明 CS ベネッセチャンネル「げんきすくすく！」に写真提供

○新聞への掲載

《連載》海からの伝言『大月発 くろしお便り』（高知新聞 毎月1回金曜夕刊最終面）

- ・4月13日 お月さん桃色（岩瀬文人）
- ・5月11日 シウラの浜で磯遊び（中地シュウ）
- ・6月8日 “聖地ニシドマリ”へ（野澤洋耕）
- ・7月7日 高知、ウミガメ探訪記（田中幸記）
- ・8月10日 海中の夏の夜祭り（目崎拓真）
- ・9月14日 夜の海はやめられない（東海大学大学院生 宮本麻衣）
- ・10月12日 サンゴの人工増殖目指す（岩瀬文人）
- ・11月9日 にわか漁師のカツオ漁（中地シュウ）
- ・12月28日 サンゴの赤ちゃん 元気に（野澤洋耕）

- ・1月25日 出動！プロジェクトM（田中幸記）
- ・2月22日 「大きなシイあります」（岩瀬文人）
- ・3月28日 オニヒトデとの果てしない戦い（中地シュウ）

《一般記事》

- ・4月27日 高知新聞 朝刊 大月の海にピカチュウ？ 正体はウミウシ
- ・5月19日 高知新聞 朝刊 海底に命の揺りかご 海藻繁茂 庭園の風情 土佐清水市竜串沖
- ・5月28日 徳島新聞 朝刊 生息環境に変化見られず 竹ヶ島の海洋生物、地元ダイバーら調査
- ・6月10日 高知新聞 朝刊 こども高知新聞『こども記者便り』（下）
- ・7月11日 高知新聞 朝刊 発見！ウミガメの卵 四万十市平野ビーチで初
- ・7月16日 高知新聞 朝刊 月曜ワイド『コーヒーブレイク』ウミガメの話
- ・8月7日 高知新聞 夕刊 夕刊読書『私の一冊』「宝石サンゴ」中地シュウさん（大月町）
黒潮生物研究所研究員
- ・8月8日 高知新聞 朝刊 海の宝石乱舞 サンゴが産卵 大月町
- ・8月30日 高知新聞 夕刊 TOSAギャラリー『海貌地殻』海への低い関心
- ・10月3日 愛媛新聞 朝刊 宇和海サンゴが危ない 愛南沖 オニヒトデ30年ぶり大発生
- ・10月6日 高知新聞 朝刊 サンゴ白化 大月でも 水温上昇で北上
- ・10月22日 高知新聞 朝刊 <ふれあい高知 in 大月>『西南端の宝探し』（上）守ろう、サンゴの海 種苗植え付け、後世へ
- ・10月24日 高知新聞 朝刊 <ふれあい高知 in 大月>大月こども新聞
- ・10月25日 愛媛新聞 朝刊 オニヒトデ256匹 愛南沖で駆除 地元ダイバーら
- ・10月25日 朝日新聞 大阪地方版／愛媛 異常発生のおニヒトデ駆除 足摺宇和海国立公園／愛媛県
- ・10月27日 高知新聞 夕刊 西日本ふど紀行『食彩舌訪』（226）西泊のイカ料理（大月町）
取れたての海の恵み
- ・10月27日 毎日新聞 地方版／愛媛 オニヒトデ：ダイバーら15人、256匹駆除－愛南・当木島周辺海域／愛媛
- ・10月29日 高知新聞 朝刊 <ふれあい高知 in 大月>広がる交流 地域に活気「地元行事が最優先」黒潮生物研究所学生 祭り、運動会に 西泊地区 日常に溶け込む
- ・10月30日 高知新聞 朝刊 <ふれあい高知 in 大月>古き良き田舎発信を 夜なべ談議詳報
- ・11月14日 愛媛新聞 朝刊 宇和海・オニヒトデ大発生 環境省が緊急調査へ
- ・11月17日 徳島新聞 朝刊 サンゴの人工増殖に成功 竹ヶ島海中公園自然再生協
- ・11月27日 高知新聞 朝刊 群生サンゴ活用を 観光関係者ら 大手の浜で観察会 香南市
- ・12月2日 愛媛新聞 朝刊 [解く追う] オニヒトデ大発生 愛南 観光・漁業へ影響懸念 官民挙げた広域対策急務
- ・1月1日 愛媛新聞 朝刊 サンゴ激減 海が“悲鳴”愛南・鹿島周辺 定点観察 5年で7割減 台風・貝の食害深刻
- ・2月6日 高知新聞 朝刊 大月の海中環境守れ 官民連携組織が始動 サンゴ、藻場を継続調査
- ・2月24日 高知新聞 朝刊 こども高知新聞『こども記者便り』スペシャル（上）

6 業績（ゴチック体は財団職員）

（1）著作

○黒潮生物研究財団紀要「Kuroshio Biosphere」Vol. 4, March 2008

- ・ONO Shusuke, REIMER James Davis, TSUKAHARA Junzo. Ecological survey of zooxanthellate zoanthid diversity (Hexacorallia: Zoantharia) from Kagoshima, Japan. pp. 1-16.
- ・田中幸記. 高知県大月町沿岸におけるカジメの移植実験. (Transplant experiment of *Ecklonia cava* on the coast of Otuki, Kochi prefecture, Japan.) pp. 17-24, 1 pl.
- ・久保田信. タツノオトシゴ類（ヨウジウオ目、タツノオトシゴ亜科）とヒドロ虫類の共生の日本初記録. pp. 25-28, 2 pls.
- ・久保田信. 高知県でのベニクラゲ（ヒドロ虫綱、花クラゲ目）の初出現と球体の口柄に接続してポリプへ若返った第2記録. pp. 29-32, 1 pl.
- ・久保田信. クラゲからポリプへ若返ったベニクラゲ（ヒドロ虫綱、花クラゲ目）の退化と再成長の稀少例. pp. 33-35, 1 pl.

○黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 8, no. 1 [通巻 28 号] (平成 19 年 4 月 25 日発行)

- | | |
|---|-------|
| 表紙：ジュズベリヒトデ | 中地シュウ |
| 造礁サンゴ類における幼生の分散機構の解明にむけて
—エンタクミドリイシ幼生を用いて
行った予備実験の報告— | 野澤洋耕 |
| 西泊天満宮の天井絵馬 | 岩瀬文人 |
| タケノコのお裾分け | S.N. |

Vol. 8, no. 2 [通巻 29 号] (平成 19 年 7 月 25 日発行)

- | | |
|--|------------|
| 表紙：カツオノカンムリ | 中地シュウ |
| クシハダミドリイシの飼育法について
—5年目の稚サンゴの成長— | 林 徹 |
| 本土初記録種「トゲオオイカリナマコ」 | 岩瀬文人 |
| 大月町古満目のシコロサンゴ大群落とハナガタサンゴの一種 <i>Lobophyllia robusta</i> の
巨大群体について | 中地シュウ・田中幸記 |
| 台風がやって来る！ | S.N. |

Vol. 8, no. 3 [通巻 30 号] (平成 19 年 10 月 25 日発行)

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 表紙：リンボウガイ | 中地シュウ |
| 大岐の浜の豊かな海岸林 | 田中幸記 |
| 四国西南海域で確認されたサンゴの白化について | 東海大学大学院 宮本麻衣 |
| 造礁サンゴ、ミドリイシ類 2 種における幼生の生存期間について | 野澤洋耕 |
| 大月で行われたサンゴ保全イベント | S.N. |

Vol. 8, no. 4 [通巻 31 号] (平成 20 年 1 月 25 日発行)

- | | |
|--------------------|-------|
| 表紙：ナンヨウツバメウオ | 中地シュウ |
| 幼サンゴの生存におけるギャップの効果 | 野澤洋耕 |
| 第一回竜串リーフチェックについて | 中地シュウ |
| 竜ヶ迫のオニヒトデ駆除 | S.N. |

○原著（査読）論文

- Matsumoto, A.K., F. Iwase, Y. Imahara, H. Namikawa. 2007. Bathymetric distribution and biodiversity of cold-water octocorals (Coelenterata: Octocorallia) in Sagami Bay and adjacent waters of Japan. *Bull. Mar. Sci.*, 81, Suppl. 1: 231-251.
- Nozawa, Y., P.L. Harrison. 2007. Effects of elevated temperature on larval settlement and post-settlement survival in scleractinian corals, *Acropora solitaryensis* and *Favites chinensis*. *Mar. Biol.*, 152: 1181-1185.
- Reimer J.D., S. Ono, J. Tsukahara, F. Iwase. 2008. Molecular characterization of the zoanthid genus *Isaurus* (Anthozoa: Hexacorallia) and its zooxanthellae (*Symbiodinium* spp). *Mar. Biol.*, 153: 351-363.
- Nozawa, Y., M. Tokeshi, S. Nojima. in press. Structure and dynamics of a high-latitude scleractinian coral community in Amakusa, southwestern Japan. *Mar. Ecol. Progr. Ser.*

○その他

- 中野 晋, 安藝浩資, 岩瀬文人, 内田絃臣. 2007. 竹ヶ島海中公園におけるエダミドリイシ産卵期の流動特性, 日本沿岸域学会研究討論会 2007 講演概要集, 20: 170-173.
- 安芸浩資, 中野晋, 内田絃臣, 岩瀬文人, 御前洋. 2007. 沿岸域の自然再生計画における順応的管理への HSI モデルの適用性. 海洋開発論文集, 23: 501-506.
- 田中幸記, 田井野清也, 原口展子, 平岡雅規. 2008. 高知県西部海域における藻場の分布と季節変化. 藻類, 56 (1): 68.

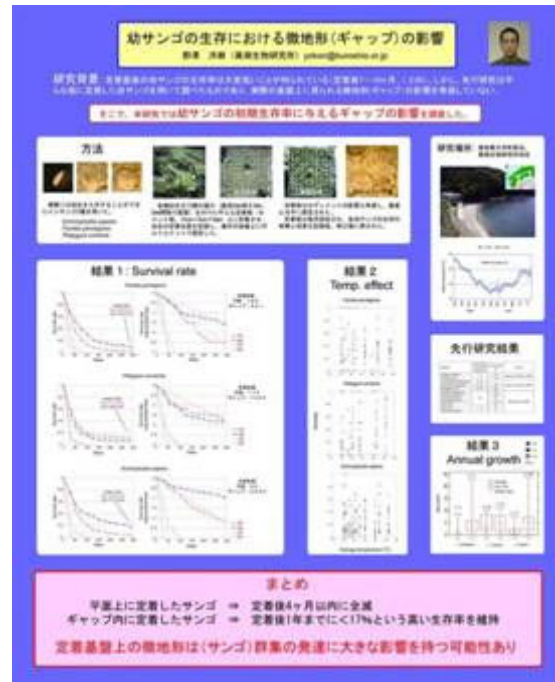
(2) 講演等

○学会等

- 安芸浩資, 中野晋, 内田絃臣, 岩瀬文人, 御前洋. 2007/7/10-11. 沿岸域の自然再生計画における順応的管理への HSI モデルの適用性. 第 32 回海洋開発シンポジウム (長崎)
- 野澤洋耕. 2007/9/21-24. 稚サンゴの生存における微地形 (ギャップ) の効果. 2007 年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会 (横浜市立大学)
- 岩瀬文人. 2007/10/12-14. イシサンゴの人工増殖. 第 3 回日本刺胞動物等談話会 (黒潮生物研究所)
- 野澤洋耕. 2007/10/12-14. 稚サンゴの生存における微地形 (ギャップ) の効果. 第 3 回日本刺胞動物等談話会 (黒潮生物研究所)
- 中野 晋, 安藝浩資, 岡田直也, 岩瀬文人, 清水里香. 2007/11/23-25. エダミドリイシの産卵期の流動場の特性. 日本サンゴ礁学会第 10 回大会 (琉球大学)
- 目崎拓真, 岩瀬文人, 野沢洋耕, 中地シュウ, 宮本麻衣, 渡辺美穂, 林 徹. 2007/11/23-25. 高知県大月町西泊における造礁サンゴの産卵とその様式について. 日本サンゴ礁学会第 10 回大会 (琉球大学)
- 野澤洋耕. 2007/11/23-25. 稚サンゴの生存における微地形 (ギャップ) の効果. 日本サンゴ礁学会第 10 回大会 (琉球大学) **ポスター賞受賞**
- 渡辺美穂, 岩瀬文人, 横地洋之. 2007/11/23-25. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入について 2004-2007. 日本サンゴ礁学会第 10 回大会 (琉球大学)
- 中地シュウ, 竹葉秀三, 富永基之, 森田輝男, 吉田修次. 2007/11/23-25. 四国西南部におけるオニヒトデの発生状況について. 日本サンゴ礁学会第 10 回大会 (琉球大学)

- ・宮本麻衣, 岩瀬文人, 横地洋之. 2007/11/23-25. 四国西南海域における造礁サンゴ群集の白化と病気について. 日本サンゴ礁学会第10回大会(琉球大学)

サンゴ礁学会でポスター賞を受賞したポスター



- ・Yamauchi, Kazuhiko, H. Taira, R. Tanaka, F. lwase, K. Tagaya . 2007/11/26-30 . Fundamental Study on Characteristics of Seabed Sediment Affecting Sea Ecosystem. 第1回水の科学・水資源 国際シンポジウム(高知:佐川町)

- ・田井野清也, 田中幸記, 原口展子, 平岡雅規. 2008/3/3-4. 高知県西部海域における藻場の分布と変遷. 第5回ホンダワラ属の分類に関するワークショップ(鹿児島県水産技術開発センター)

- ・野澤洋耕. 2008/3/14-17. 稚サンゴの生存における微地形(ギャップ)の効果. 日本生態学会第55回大会(福岡)

- ・田中幸記, 田井野清也, 原口展子, 平岡雅規. 2008/3/21-24. 高知県西部海域における藻場の分布と季節変化. 日本藻類学会第32回大会(東京海洋大学)

(3) 調査報告書等

- ・平成19年度モニタリングサイト1000事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務報告書, 2008.02. 黒潮生物研究財団(自然環境研究センター)
- ・平成19年度竜串自然再生事業海域調査業務報告書, 2008.03. 黒潮生物研究財団(中国四国地区環境事務所)
- ・平成19自竹ヶ島海中公園海陽自然再生事前調査室戸阿南海岸国定公園報告書海部郡海陽町竹ヶ島〜穴喰成果報告書, 2008.03. 黒潮生物研究財団(ニタコンサルタント・徳島県)
- ・平成19年度管理方針検討調査(足摺宇和海国立公園オニヒトデ等監視対策検討調査)委託業務報告書, 2008.03. 黒潮生物研究財団(中国四国地方環境事務所)
- ・平成19年度グリーンワーカー事業(オニヒトデ駆除事業)報告書, 2008.03. 黒潮生物研究財団(中国四国地方環境事務所)
- ・平成19年度海洋資源保全活用事業委託業務報告書, 2008.02. 財団法人黒潮生物研究財団(大月町)
- ・トサカノリ増殖試験報告書, 2008.03. 財団法人黒潮生物研究財団(大月町)

(4) 研究所利用者の業績

○助成研究

- ・加藤芽衣, 山岡耕作, 大谷和弘, 岩瀬文人. 2007/11/23-25. 高知県南西部におけるサンゴ食巻貝レイシダマシ類のイシサンゴ類への集団形成に関する特徴. 日本サンゴ礁学会第10回大会.(沖縄:琉球大学)

- ・宮本麻衣, 岩瀬文人, 横地洋之. 2007/11/23-25. 四国西南海域における造礁サンゴ群集の白化と病気について. 日本サンゴ礁学会第10回大会(琉球大学)
- ・依藤実樹子, 渡邊俊樹. 2007/11/23-25. ムカデミノウミウシ体内の褐虫藻多様性と褐虫藻の適合性. 日本サンゴ礁学会第10回大会(琉球大学)
- ・渡邊美穂, 岩瀬文人, 横地洋之. 2007/11/23-25. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入について2004-2007. 日本サンゴ礁学会第10回大会(琉球大学)

○研究所利用博士論文

- ・安藝浩資. 2008. 沿岸域の自然再生における計画アセスメント手法に関する研究. 徳島大学大学院工学研究科.
- ・Keshavmurthy Shashank. 2008. Ecological studies on the influence of microorganisms on coral physiology. (サンゴの生理に対する微生物群集の影響に関する生態学的研究). 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科.

○研究所利用修士論文

- ・加藤芽衣. 2008. サンゴ食巻貝レイシダマシ類の集団形成. 高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻.
- ・宮本麻衣. 2008. 四国西南海域におけるハナヤサイサンゴ科2種, ハナヤサイサンゴ *Pocillopora damicornis* とショウガサンゴ *Stylophora pistillata* の幼生放出と加入に関する研究. 東海大学大学院海洋学研究科水産学専攻.
- ・田中幸記. 2008. 高知県西部海域における藻場の分布と季節変化. 高知大学大学院理学研究科
- ・四方正孝. 2008. 与論島周辺海域の水質環境とそれがサンゴに与える影響. 高知大学農学研究科栽培漁業学専攻.

○研究所利用卒業論文

- ・川崎茜・井上紘行. 2008. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入—2007年. 東海大学海洋学部
- ・向本康祐. 2008. サンゴ分泌物が周辺海水中の細菌群へ与える影響とその季節的変動. 高知大学農学部

○学会等

- ・住谷保治, 大澤早希, 鮫島直己, 間寛祥子, 榊秀之, 津島巳幸, 幹渉, 岩瀬文人, ジン・タナゴン, 沢辺昭義, 坂上吉一, 米虫節夫. 2007/11/23-25. フィリピン・沖縄・高知のサンゴ礁海域におけるカロテノイド生産菌の探索について. 日本サンゴ礁学会第10回大会(沖縄:琉球大学)

7 研究所利用者

下記のとおり研究所の利用者があった。

一般研究職	6名	延べ	23日人
大学教職員	13名	延べ	42日人
ポストドクター	3名	延べ	19日人
大学院生	15名	延べ	693日人
研究生	1名	延べ	3日人
大学生	18名	延べ	376日人
高校生	2名	延べ	36日人
一般	2名	延べ	29日人
合計	60名	延べ	1,221日人

平成19年度は研究所の利用者数が1,000日人を超え、研究所の存在と利便性が広く認知されたことが感じられた。長期滞在者としては東海大学の大学院生と4年生が半年以上滞在して修論および卒論研究を、高知大学の大学院生が調査と実験のため1～2週間の滞在をくり返して修論研究を、東北大学の大学院生が2ヶ月足らず滞在して博論研究を、退職した元研究所職員が研究の完遂を目的に1ヶ月足らず滞在して資料の収集を行った。高知大学大学院生および4年生が頻繁に来所して博論・修論・卒論研究を行った。冬休みを利用して高知海洋高校の生徒2名が、研究所業務の補助を行う目的で滞在した。他は短期滞在による調査や採集、データの収集であった。

利用者の所属の内訳は、

東北大学	1名
千葉大学	1名
東京大学	1名
東京工業大学	1名
東海大学	8名
名古屋大学	1名
京都大学	4名
近畿大学	15名
広島大学	2名
愛媛大学	2名
高知大学	8名
徳島大学	1名
四国大学短期大学部	2名
琉球大学	3名
高知海洋高校	2名
大学以外	8名
合計	60名

となっており、北は東北大学、南は琉球大学まで14大学の50名、および大学以外に所属する10名の方々によって利用された。

8 寄 附

当財団では以下の要領で一般に寄附金を募っている。

- 募集期間：随時
- 対 象：当財団の活動にご賛同いただける個人・団体・法人
- 金 額：金額は自由です。
- 免税措置：当財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、ご寄附を行われた場合には、所得控除や損金算入など税法上の優遇措置がうけられます。
- 特 典：1,000円以上ご寄附をいただいた方には、ご寄附をいただいた年度に発行する当法人機関誌「CURRENT」（季刊年4回発行）をお送りいたしております。また、10万円以上ご寄附をいただいた方には、学術誌「Kuroshio Biosphere」（年1回発行）もお送りいたしております。

平成19年度には、個人9名、法人2社からご寄附をいただいた。

ご寄附いただいた企業

ステラケミファ株式会社
株式会社東京久栄

ご寄付いただいた個人

深田理事長、茅ヶ崎市 成谷様、下関市 園山様、松山市 蒲池様、大月町 安田様、宿毛市 山下様、四万十市 大原様、四万十町 山本様、高知市 氏名等の公表を望まれない1名の方

寄附金総額は18,151,000円だった。謹んで御礼申し上げます。